

都市再生整備計画 事後評価シート
篠ノ井駅東口周辺地区

令和4年2月

長野県長野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	長野市	地区名	篠ノ井駅東口周辺地区			面積	85.2ha				
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年12月	交付対象事業費	1,451.8百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(篠ノ井支所線、篠ノ井中152号線)、高次都市施設(地域交流センター再整備)、誘導施設(老人福祉センター再整備)										
		提案事業	—										
	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—			—			—				
		提案事業	—			—			—				
	新たに追加した事業	基幹事業	—			—			—				
		提案事業	—			—			—				
	交付期間の変更	当 初	平成28年度～平成31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		施設全体の計画に変更はないことから影響はない。							
		変 更	平成28年度～令和2年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標			従前値	目標値	数 値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期			
	指標1	歩行者・自転車通行量	人／日	3,402	H26	3,400	R3	4,570	2,487	△	あり	新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請などの影響で評価値は減少したが、感染症の影響前のR1年9月の拠点施設利用開始直後に行われたモニタリング調査では増加しており、これは老人福祉センターを市街化調整区域から公共交通機関が利用しやすい中心拠点区域へ移転し、立地的な利便性が向上したことや、老人福祉センターと地域交流センター、市支所の合築複合施設の完成により公共公益施設の集約・機能強化が図られ、施設利用者の増によるまちなかへの回遊に繋がり、事業効果が発現したものと考えられる。このため、感染症の影響がない場合、目標値の達成が見込まれる。	令和5年9月
											なし	●	
	指標2	拠点施設の利用者数	人／年	63,591	H26	63,600	R3	50,066 (R1.9～R2.3)	35,324	△	あり	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から施設の利用制限が行った影響で評価値は減少したが、R1年9月の拠点施設の利用開始以降、感染症の影響前のR1年度の利用者は増加傾向にあり、これは老人福祉センターを市街化調整区域から中心拠点区域へ移転したことによる立地的な利便性が向上されたことに加え、地域交流センターとの複合施設による交流の拠点が整備され、より幅広い地域交流が可能となったことから、コミュニティ活動の向上に繋がり、事業効果が発現したものと考えられる。このため、感染症の影響がない場合、目標値の達成が見込まれる。	令和6年3月末
											なし	●	

3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定期	
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1										
4)定性的な効果 発現状況	その他の数値指標2										
	その他の数値指標3										
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流センターの運営方法を見直したことにより、地元高校吹奏楽部等の発表会の開催が可能となり、幅広い世代間交流の場を提供することが出来た。 ・老人福祉センターと地域交流センター両施設の利用状況により交流活動の場を決める利用者が出ており、施設の効率的な利用が図れ、より多くの人に交流活動の場が提供され、コミュニティ活動の向上に繋がっている。 ・駅前通りで朝市「しののい軽トラ市」が定期的に開催され、軽トラックで持ち込まれた地元農作物をはじめ、雑貨や物産などが販売され、消費者、生産者、商工業者の交流によるまちの賑わい創出が図られている。 ・サッカーJ3長野パルセイロのホームタウンの玄関口として、篠ノ井駅前商店会などが中心となり、駅前通りの歩道にバナーを設置したり、チームカラーの植物を植えるなど、歩行者空間の魅力向上とまちの賑わい創出に取り組んでいる。 ・R1年10月の東日本台風災害の際、篠ノ井総合市民センターを自主避難所として避難者の受け入れを行ったり、ボランティアの活動拠点としてサテライト施設が開設され、効率的な支援活動が行われたり、災害相談窓口を開設するなど、災害支援活動の拠点として施設を活用することが出来た。 ・新型コロナウイルス感染症のワクチン集団接種会場を開設する際、市南部地域の会場の一つとして地域交流センターを活用し、接種希望の地域住民に対し早期接種に寄与することが出来た。 										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング	長野市歩行者通行量調査		都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	計画期間後も、従来のモニタリング手法を用いて定期的に指標の変化を確認していく。			
	住民参加プロセス	(仮称)篠ノ井総合市民センター建設検討会議		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				令和元年9月2日の施設開所に伴い終了			
	持続的なまちづくり体制の構築			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

篠ノ井駅東口周辺地区(長野県長野市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:人・地域が輝き人々が集う「あい」のまち 目標1:人々の生活を支える様々な都市機能がコンパクトに集積した安心・安全で快適な中心市街地を創造し、賑わいの再生と人々が集い行き交う交流のまちを目指す。 目標2:多彩な市民活動を育むことで、人・地域が輝き活力溢れるまちを目指す。	歩行者・自転車通行量	単位:人/月	3,402	H26	3,400	R3	2,487	R2
	拠点施設の利用者数	単位:人/年	63,591	H26	63,600	R3	35,324	R2



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センター、地域交流センター、市支所との合築による複合施設が完成したことで、地域住民の日常を支える拠点施設の集約・多機能化が図られ公共公益サービス機能の向上が図られた。 ・地域交流センターの運営方法を見直したことで、より幅広い地域交流の場を提供できるようになった。 ・市街化調整区域にあった老人福祉センターを中心拠点区域へ移転、地域交流センターの分館機能の集約と都市機能の集約化を図ることが出来た。 ・施設周辺における道路改良事業による歩道の確保、拡幅、車歩道の色分けにより歩行者の安全性の向上が図られた。 ・老人福祉センターと地域交流センターの合築による複合施設が完成したことで、市民活動や世代間交流の促進など、地域活力の創出を図る拠点が整備された。
今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内は多世代が活動するまちなかにあって、道路の幅員が狭く、歩道が未設置な区間が多いことから、幹線道路の整備などによって、歩行者の安全性の向上を図り、歩いて暮らせるまちづくりを推進し、市民活動を育む環境を整備する。 ・拠点施設の感染拡大防止対策を徹底し、利用者が安心して活動できる場を提供していくとともに、利用者アンケートなどから施設運営の向上を図ることで、アフターコロナへ向け地域コミュニティの継続的な活動を促進する。